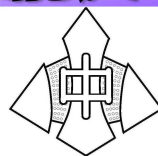


手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年4月17日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

“学級力”こそ、学校の基盤であり、学校生活の原動力となる！

4月15日（水）には、前期学級役員任命式を放送で行いました。各クラスの学級委員長・副委員長・書記・会計、総勢74名が任命されました。今回も放送による任命式でしたが、1年は凌りくなさん、2年は佐賀春空君、3年は佐藤麗さんの3名が学年代表として教頭先生から任命書を受け取りました。それ以外の生徒は担任の先生から各クラスで受け取りました。

学校の基礎集団はまさしく“学級”です。一つ一つの“学級のチーム力”、つまり“学級力”こそ、学校の基盤であり、学校生活の原動力となります。授業への真剣かつ積極的な取り組み、責任感のある係活動、素早い給食の準備や後片付け、手を抜かない清掃、学校行事・生徒会活動での団結力、そして、思いやりに溢れた協力性のある温かい雰囲気など、“学級”を核にした様々な活動において、今回任命されたリーダーを中心に学級力を高めていってほしいと思います。74名のリーダー達の活躍に期待します。学年代表3名の力強い抱負です。

学級委員長としてたくさんの抱負があります。まず、皆をしっかりとまとめられるようになり、先生やクラスの皆から信頼される委員長になりたいです。また、1年1組がよりよいクラスになるように、私自身いろいろなことに挑戦し、皆と一緒にがんばっていきたいと思います。入学したばかりで不安もありますが、できるかぎり一生懸命に、そして楽しんで委員長をつとめたいと思います。（1-1 凌りくな）



僕は、この学級委員長になるのと同時に目標を立てました。この2年生の間に身につけられるようにしたいです。それは、「積極性」です。自分のクラスは、何かを発表するときも自信がなさそうな答え方をしています。それを改善するために次のことを実行したいです。学活や道徳には決まった答えはありません。意見は人それぞれです。そこで全員とはいかずとも、半数くらいの人を発表させ、それを継続させていけば、少しずつ自信が持ててくると思います。これによって目標を達成できるようにしたいです。個人の目標もあります。自分は休み時間と授業のケジメが中途半端なので、すぐに切りかえられるようにしたいです。先輩の立場になった今、1年生に手本として見てもらえるように、全体的に落ち着いた生活を心がけていきたいです。（2-1 佐賀春空）



今年は様々なことに挑戦する年にしたいと思い、学級委員長や学年運営委員長に立候補させていただきました。最高学年である3学年の代表として、自覚と責任をしっかりと持ち、よりよいクラス・学年をつくっていきけるように、一人ひとりの意見を取り入れながら一生懸命頑張りたいと思います。（3-4 佐藤麗）



任命書を受け取る3名

生徒会活動 本格的にスタート！



専門委員会の話し合いの様子

4月15日（水）には、9つの前期専門委員会と週番、応援団の特別委員会が結成されました。委員会の組織づくりや活動内容についての話し合いが行われ、いよいよ生徒会活動が本格的にスタートすることになります。

生徒会活動の活発な学校には活気があります。このような状況だからこそ、学校に元気や活気がぜひほしいと思います。

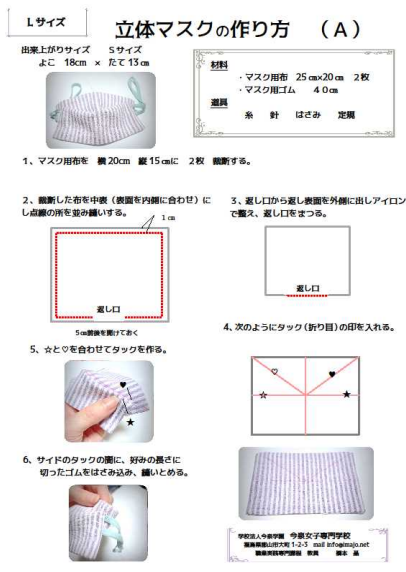


始業式、入学式から2週間が経過しました。13日（月）からは短縮授業が実施され、部活動が中止となりました。15日（水）からは時間割による授業がスタートしました。1年生も2週間が経過し、いつもとは違う中学校生活のスタートでしたが、徐々に中学校のペースに慣れてきているように感じます。各教室を巡回すると、どの学級にも授業に真剣に向き合う生徒の姿があります。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大は続いており、連日マスコミでは「休業要請」、「接触8割減」、「医療崩壊」など、様々なキーワードとともに、新型コロナウイルス関連の報道が続いています。情報過多により不安感が増長している傾向も感じます。「正しく理解し、正しく恐れる」ことの意味を再確認する必要があると思います。そして、いつ臨時休校措置がとられてもおかしくないという危機感を持って、措置がとられた際の備えを万全にしておくとともに、校内における感染症対策について、その対応を緩めることなく続けていくことが、今の我々の責務であると考えております。保護者の皆様には、毎朝の検温等へのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

■ 本校では、ここ数年、生徒の主体性の伸長を図るため、グループワーク等の学び合い学習を積極的に進めてきました。しかし、3密が重なる場の回避等の措置により、従来の授業の進め方の見直しが必要となり、**次の点に配慮しながら、授業を実施**しています。

- (1) 授業での**グループ活動等は最小限にする**とともに、**グループ活動等の近距離での会話や発声が必要な場合や理科や技術家庭の実験・実習の授業の場合の留意点**
 - ① **マスクの着用**（マスク情報については次に記載）
 - ② 授業中も**こまめに換気**（暖かい時は、教室の窓と出入り口を開放しておく）
 - ③ **席の間隔**をできるだけ広く、**生徒同士の距離感**に注意
 - ④ 教材・教具・機器等の**消毒**
 - ⑤ 実験・実習前後の**手洗いの徹底** など
- (2) **音楽の歌唱指導の場合**は、一人一人の間隔を空け、人のいる方向に口が向かないようする。
- (3) **保健体育の実技では**、個人や少人数で密集せず距離をとって行うことのできる運動など工夫をする。
- (4) 教科によっては、年間指導計画の中で単元や題材の順序を変更して、授業を実施する場合もある。



授業の様子については、
今後お知らせいたします。

■ 店舗でのマスク購入は未だに困難な状況です。そのマスクについての情報です。

- ① 政府が各家庭に配付するマスクとは別に、**文部科学省から全国の学校の児童生徒・教職員に布マスクが配付**されます。**1人につき2枚で、1枚目は4月中旬に、2枚目は5月以降に届くとの連絡**がありました。届き次第、お知らせします。
- ② 本校にも**手作りマスクを着用**している生徒や教員が見られるようになりました。私も現在家族とともに制作中です。ネットで探すと、様々な手作りマスクの作り方が紹介されています。手作りマスクの詳細については、後日紹介したいと考えています。今回は、今泉女子専門学校より市内各学校へと送られてきた**「マスクの作り方」（ブリーツマスク、2種類の立体マスク S・Lサイズ）**のデータをホームページに掲載しました。細かいゴム紐やガーゼ等の購入も難しくなっていますが、代用品は工夫次第です。ぜひご活用ください。